

# ロゲイン上皇・拳兵！島流し

村越 真

霧ヶ峰ロゲイン 2009 2009年7月5日 長野県諏訪市

ロゲインの帝王に向けて拳兵した上皇こと村越。老獪なる戦略を秘めて戦に臨むが破れて島流し。

2009年7月5日 長野県諏訪市  
霧ヶ峰ロゲイン 2009



村越真。霧ヶ峰の草原で帝王・柳下と勝負。

## 上皇・村越の拳兵

体力的に不安のあった昨年の霧ヶ峰だが、気づいてみれば3位。しかも、8秒100点の減点がなければトップといふべきだった。これを期に、柳下の向こうを張って「ロゲインの上皇」を名乗ったが、その後はほとんどのロゲインで運営に周り、その力を発揮するチャンスがない。南北朝の戦いを起こして、「帝王」柳下を破るのじゃ。

## 綿密・老獪な戦略

地図をもらってプランをたて始める。今回の目玉は車山方面に広がった東のエリア。配置を見ると、150点と80点を、合計230点。往復約30分かかるとを考えると、少し安い気がするが、その入り口にやはり約100点のコントロールがある。まずまずの配点だろう。

車山は昨日の検討で、100点以下では

絶対に損だと分かっていたから即捨てる。八島が原湿原は、100点と40点があるが、40点は東から出戻りできる。とすると、木道を歩いて約25分で100点は安い。そこでここも捨てるべきか…。こうやって効率の悪い部分を切り捨て、残った場所を昨年のタイムで結んでいくと、南の踊場湿原にいけるかどうか微妙な感じになる。柳下は、昨年の踊場湿原が「ばば」だと思っているようだが、合計点数270点は決して悪くない。ここは時間を見て途中で再プランすることにした。

## 今年も上位を目指して

スタート後かなり多数の集団の後ろをついて41点を目指す。その多くはニコウキスゲの道の62点を目指している。この道を通るほとんどの選手は八島ヶ原湿原方面を目指すのだろう。昨年はしっかりはりついた柳下と、とくに先についてしまった。64点で八島ヶ原湿原を回るかどうか再度まよったが、最後の踊場湿原に行くのが時間的にぎりぎりっぽかったの、ここはやはりカットすることにした。43点の出入りで許田とすれ違う。彼とのこの時間差は計算とおおり。

外周への登り、遠くに水島が見える。彼にはしっかりついていきたいところだが、どちらかというときしづつ差が開いていく感じがする。「今年のレースは厳しいなあ…」そんな思いが少しづつ精神的な焦りにつながっていった。

## 快進撃

103点の通過はほぼ75分で予想とおり。ここまできて車山スキー場の151点と80点をこぼすのはあり得ない。下りに11分かかり、これはババかと思ったが、登りは約15分で登れたので、ここもほぼ予想通りのタイムで通過する。

ここから車山湿原を周り、一度沢渡を経由して霧ヶ峰ICに上がってくる。ここで40分なら、下りに20分弱、登りは昨年17分で上がってきているから、十分だろう。そう考えながら霧ヶ峰ICについたのが、45分前。楽勝じゃん！

ここまでの完璧なプラン通りの進行が、最終的にはあだになった。60点は直で取りに行くかどうか迷ったが、結局いった。これをパスして、最後の時間調整でとるかどうかを定めることもできたが、まだこの時はそんなにきわ

どいレースになる認識はなかった。40点も101点も予想通りに通過。101点であと23分残っている。昨年のペースなら楽勝だ。63点さえとれるかもしれない。

## 崩れる上皇軍

完璧なプランにほころびが生じたことに気づいたのは、101点から道に出る登りであった。踊場湿原の北側はほぼ平だが、南は約40mアップがある。それは分かっていたが、昨年はレース序盤ということで、苦しさは感じなかった。しかし、2時間40分近く走った後の筋肉はグリーンコーゲンが完全に枯渇していた。

池のくるみで120mの登りにとりついた時には残り12分。とりついて数メートルあるいた時に、12分の残り時間では絶望的なことを悟った。

結局ゴールでは3分強オーバーの400点減点。戦略は間違っていないが、その戦略を実行するだけの戦力を持ち合わせていなかったということだ。

こうして南北朝の戦いに敗れた上皇は隠岐に島流しとなった。次の旗揚げはいつのことになることか…

## ロゲインの魅力

車山スキー場まで広がった霧ヶ峰ロゲインはさらにロマンティックになった。そして戦略も難しくなった。おなじテレンでもちょっとエリアが代わり、配点が違うだけで楽しめる。それもロゲインの魅力であろう。今回は270名以上の参加があったというから、地元への認識もさらに高まったことだろう。今回、両端のエリアで地元との軽いトラブルがあったと聞くと、こんな最高のロケーションでのロゲインがこれからも楽しめることを祈りたい。

(村越 真)

### 【お知らせ】

レースアナリシスには地図が必要ですが、現在、この地図は複製不可のため、本号への掲載は見合わせています。